

公園施設

箇所数
498箇所 (H29) **UP** 502箇所 (R5)

面積
326ha (H29) **UP** 330ha (R5)

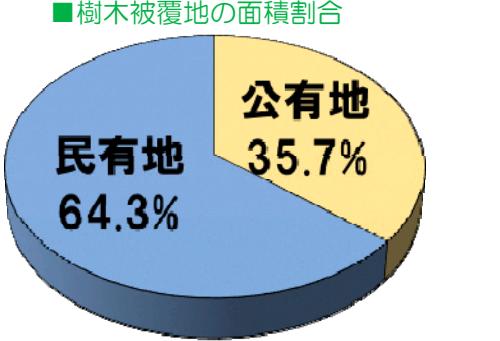
区内には、都立公園3箇所、区立公園340箇所、都市緑地12箇所、区立児童遊園147箇所、合計502箇所(330ha)の公園施設があります。

6年前と比較すると4箇所、面積で4ha増加しました。樹木被覆地率は、36.6%で前回から変化はありませんでした。

公有地・民有地

区内の樹木被覆地の面積割合を公民で比較すると、樹木被覆地の面積割合では、公有地35.7%、民有地64.3%であり、民有地の樹木被覆地面積は公有地の約2倍となっています。

樹木被覆地、緑被地ともに5割以上が民有地に分布していることは足立区の特徴の一つです。



公共集合住宅

樹木被覆地率
19.7% (H29) **UP** 20.7% (R5)

区内166箇所の公共集合住宅※の樹木被覆地率は20.7%で、6年前と比較すると1.0ポイント増加しました。

区全体の樹木被覆地率(9.7%)を大きく上回り、公園に次ぐ樹木の宝庫となっています。

※公共集合住宅
東京都や足立区、UR都市機構、住宅供給公社が管理・運営している集合住宅

樹木被覆地率
36.6% (H29) **KEEP** 36.6% (R5)



エリアデザイン

エリアデザイン各地区の緑被率

①綾瀬・北綾瀬エリア

綾瀬・北綾瀬エリアは、東綾瀬公園のみどりが特徴的です。スポーツやレジャーなど多くの区民の方々が利用しています。

②江北エリア

江北エリアは、江北平成公園周辺のみどりが特徴的です。公園に緑が多いのはもちろんですが、最近は集合住宅のみどりもどんどん増えています。

③六町エリア

六町エリアは、一ツ家第一公園のみどりが特徴的です。実は変電所内のみどりも空から見ると豊富なことがわかります。

④千住エリア

千住エリアは、荒川河川敷のみどりが特徴的です。河川敷の緑地が整備されており、スポーツや日々の散歩など多くの区民の方々は利用している身近なみどりと言えます。昨今ではビルの屋上が緑化されているところも増えてきています。

⑤梅島・西新井エリア

梅島・西新井エリアは、西新井さかえ公園のみどりが特徴的です。隣接する商業施設と併せて多くの方が訪れるスポットです。

⑥竹の塚エリア

竹の塚エリアは、保木間公園とその周辺のみどりが特徴的です。隣接するUR団地もとてもみどりが豊富です。

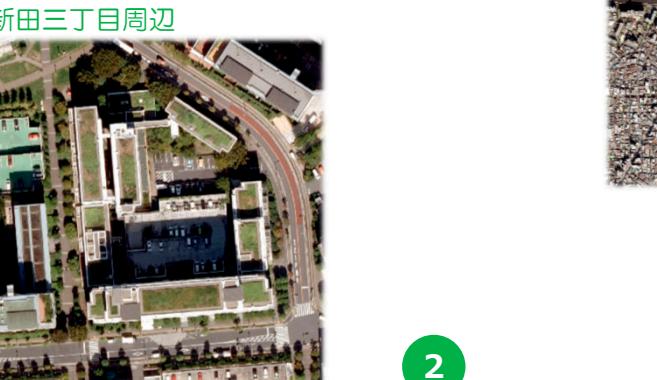
⑦花畠エリア

花畠エリアは、花畠団地とそれに連なる公園、学校施設のみどりが特徴的です。隣接する花畠公園には約90本の桜が植えられていて、お花見を楽しむこともできます。

屋上緑化

屋上緑化面積
8.0ha (H29) **DOWN** 7.8ha (R5)

区内の屋上緑化面積は7.8haで、6年前と比較すると0.2ha減少しました。



エリアデザイン計画とは、まらの特徴・魅力や求めるべき将来像などをエリアデザインとして、広く発信することで、イメージアップや地域活性化を図る新しいまちづくりの取り組みです。



足立区

緑の実態調査とは？

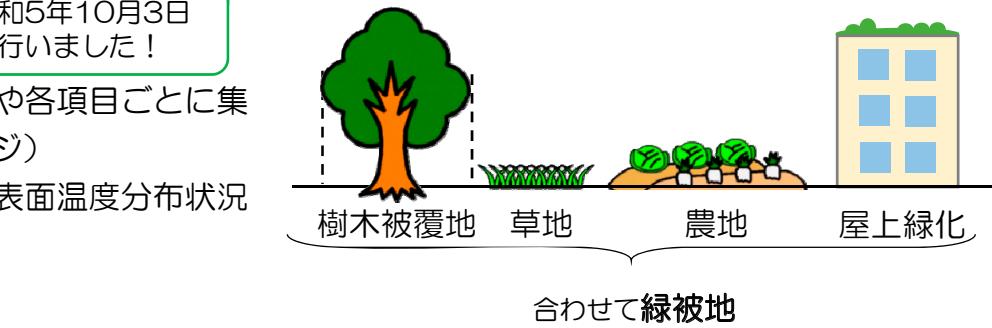
足立区緑の保護育成条例に基づき、区内の緑の現況と変化を把握するため、おおむね10年ごとに調査を行っておりました。今回は平成29年に続き7回目の調査となります。

■主な調査内容

- 空中写真撮影し、その写真を基にしたデータを画像解析し、緑で覆われた面積を判読・抽出
- 上述の抽出面積を区全体や各項目ごとに集計（→1・2・6・7ページ）
- 人工衛星のデータから地表面温度分布状況を分析（→3ページ）

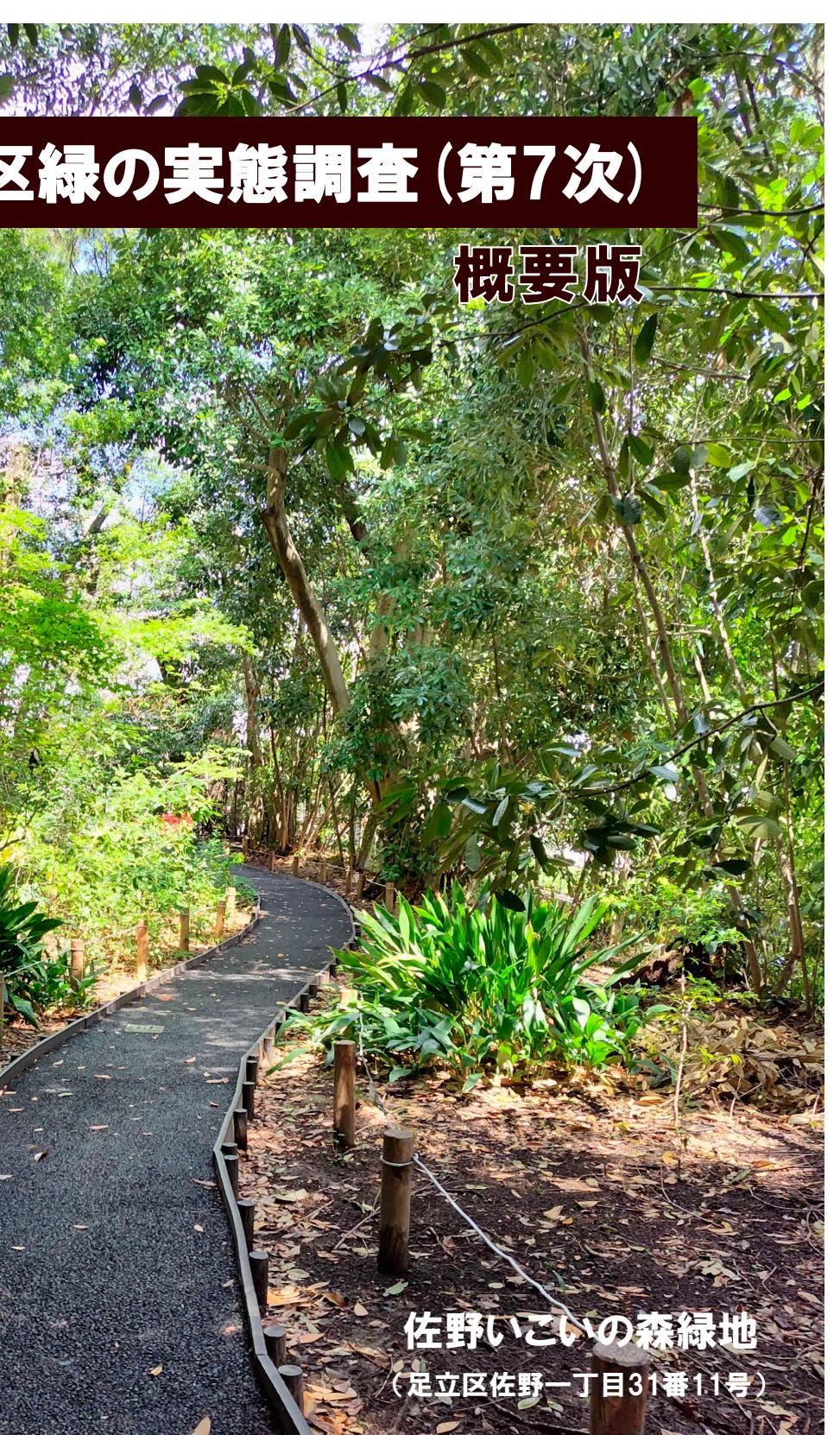
■言葉の説明

樹木被覆地…樹木で覆われた土地
緑被地…樹木で覆われた土地+草地
+農地+屋上緑化



令和5年度 足立区緑の実態調査(第7次)

概要版



調査結果

- 区全体の樹木被覆地率は前回から0.3ポイント増の9.7%で、現行の「足立区緑の基本計画」の中間目標値(R6)が9.8%ですから、概ね順調に進んでいると言えます。
- 区全体の緑被率は17.2%で前回調査(H29)と同様となりました。
- 農地の面積は40.6haで、30年前(H6)の約3割まで減少しました。

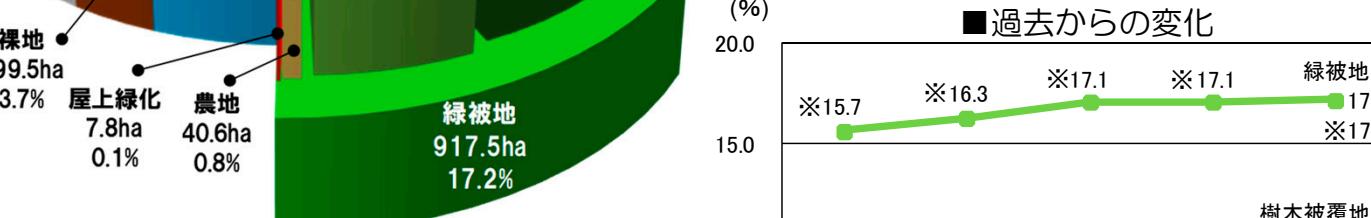
樹木被覆地率

9.4% (H29) **UP** 9.7% (R5)

緑被率

*17.1% (H29) **KEEP** *17.2% (R5)

*屋上緑化を含まない値



23区の中で...

樹木被覆地率は17位(1位 渋谷区)

緑被率は16位(1位 千代田区)

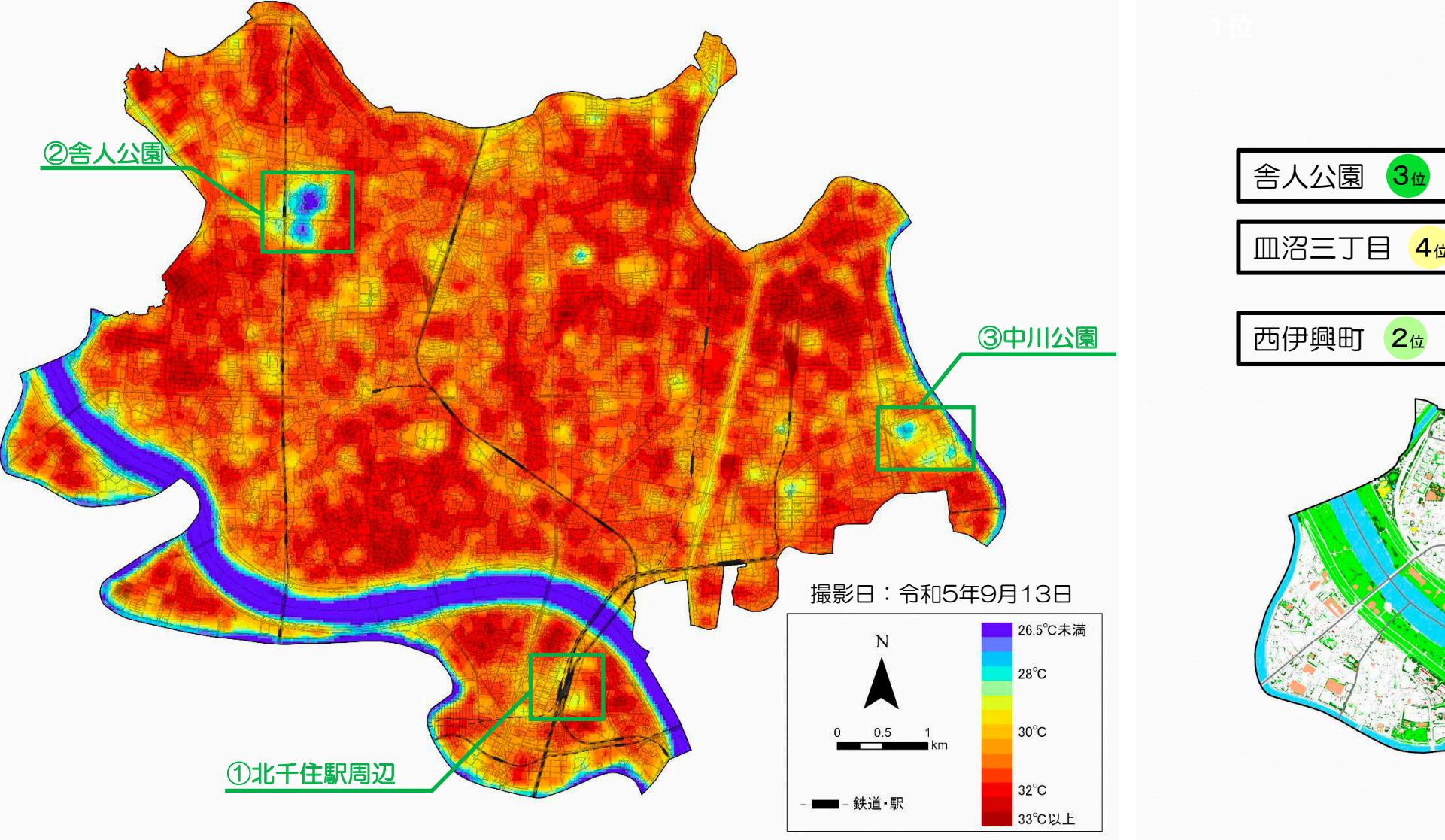
意外と足立区には緑がない…！

令和6(2024)年3月 都市建設部 パークイノベーション推進課

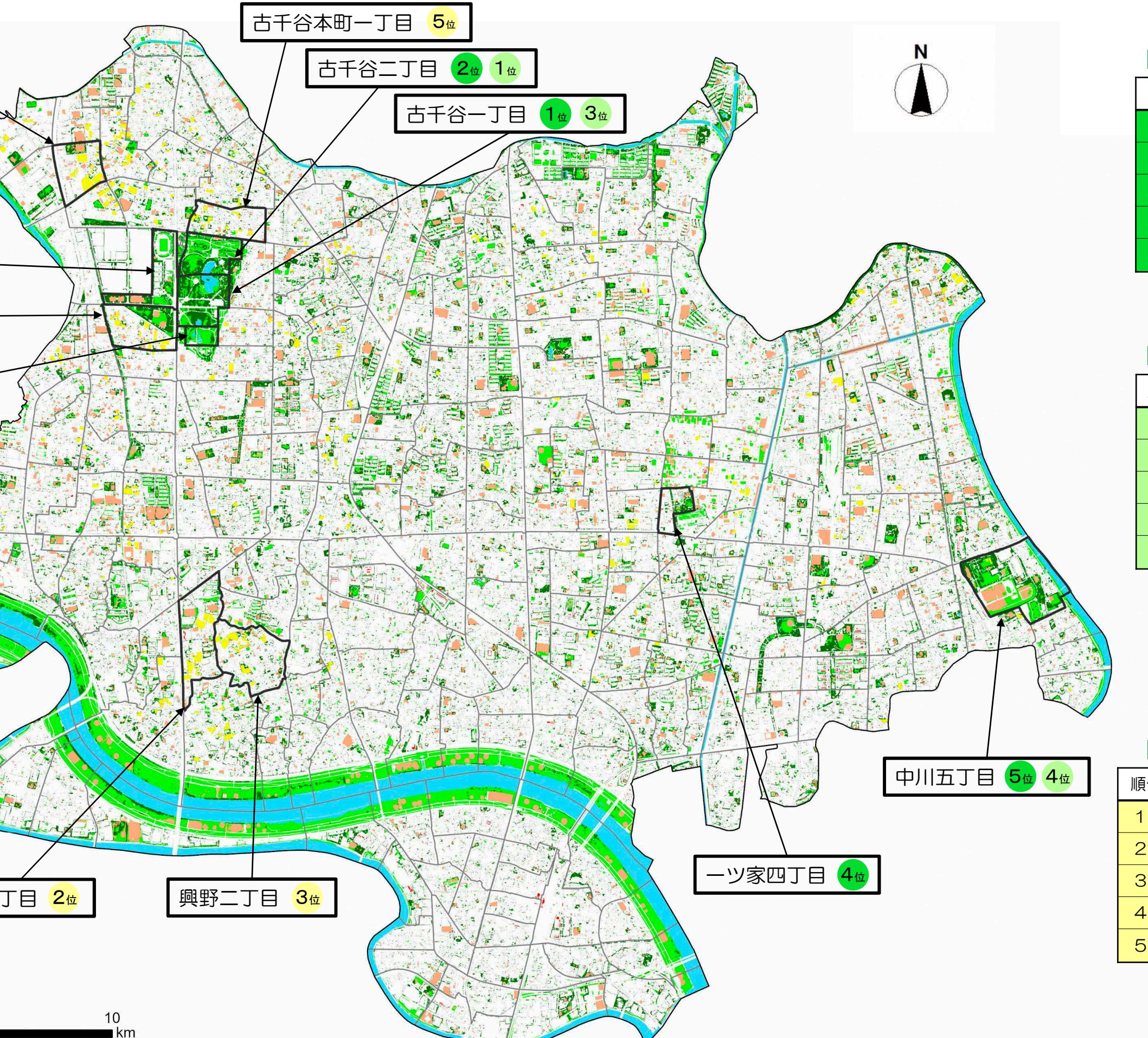
地表面温度分布図

人工衛星データを画像解析して、足立区の地表面温度を示しました。
戸建住宅が密集している地域や大きな工場・商業施設がある地域は温度が高く、大きな公園や河川沿い、樹木が多い公共集合住宅がある地域では温度が低くなっています。

撮影日の最高気温（東京都）は32.7°Cで真夏日でしたが、舍人公園や河川沿い（荒川、隅田川、中川）では10°C近く低くなっている場所もあります。最高気温より高い場所は、入谷九丁目や佐野二丁目、本木北町など大きな公園が少ない場所でした。



足立区の緑被等分布図



■ 樹木被覆地率

順位	町丁目	%
1位	古千谷一丁目	47.1%
2位	古千谷二丁目	38.7%
3位	舍人公園	26.8%
4位	一ツ家四丁目	23.1%
5位	中川五丁目	22.3%

■ 緑被率

順位	町丁目	%
1位	古千谷二丁目	86.8%
2位	西伊興町	75.8%
3位	古千谷一丁目	71.3%
4位	中川五丁目	45.5%
5位	舍人公園	44.1%

■ 農地率

順位	町丁目	%
1位	入谷四丁目	14.9%
2位	扇三丁目	9.0%
3位	興野二丁目	8.3%
4位	皿沼三丁目	7.3%
5位	古千谷本町一丁目	7.0%

町丁目ごとの緑の現状

特に緑被率が上がったのは古千谷二丁目で、12.5ポイント増加しました。舍人公園に位置する町丁目であり、公園の整備や樹木の生長が増加の要因になっています。

減少が目立ったのは江北四丁目で、12.6ポイント減少しました。前回更地だった場所に新たな建物が建ったことが原因です。



農地の現状

農地面積^{※1}

56.2ha DOWN (H29)

40.6ha (R5)

区内の農地面積^{※1}は40.6haと、6年前と比較して14.5ha、割合にして28%減少しました。

そのうち生産緑地面積^{※2}は27.1haで、6年前から5.1ha減少しました。減少のほとんどが農地転用による宅地造成が原因です。

維持していくことが難しい農地ですが、緑地保全の観点から、少しでも減少を抑え守っていきたいものです。

生産緑地面積^{※2}

32.2ha DOWN (H29)

27.1ha (R5)

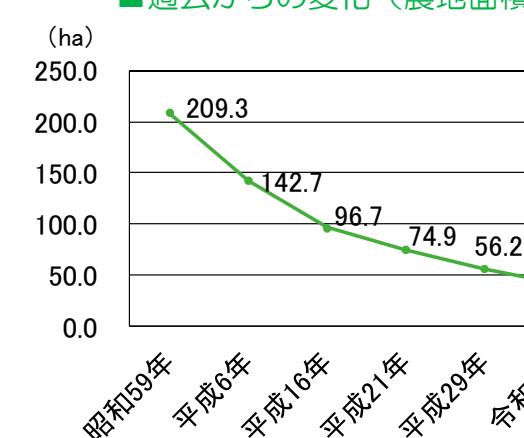
そのうち生産緑地面積^{※2}は27.1haで、6年前から5.1ha減少しました。減少のほとんどが農地転用による宅地造成が原因です。

維持していくことが難しい農地ですが、緑地保全の観点から、少しでも減少を抑え守っていきたいものです。

■ 農地が宅地造成された例（青井一丁目）



■ 過去からの変化（農地面積）



※1 農地面積：空中写真を基に作成したデータから抽出した、農地の面積
※2 生産緑地面積：都市部に残存する農地の計画的な保全を図ること目的として、一定の要件を満たす農地を都市計画として生産緑地地区に指定した面積